

害を矯正せんために試みたる禁獄、國史の纂修、池溝開墾、工藝繪畫の奨励、音樂の學習等に就て述ぶるところなり、尙附録として聖徳太子憲法略解一篇を新たに加へたり。太子の十七條憲法に關しては昨年岡田正之氏、黑板博士相踵いて其研究を發表せられしが、本書十七條憲法の章には此等の新研究に就いては言及するところなしと雖も、附録に於ては岡田氏の所説をも參酌考慮して筆を行れり。尙ほ其他の章節中にも小補正をなしたる所あり、引用の漢文の字句に讀み易き様送り假名を施せる等と改正せられたるところにして、要するに本書は因より全く前版の面目を更めたるものにはあらざれども著者が多年其の崇拜する聖徳太子を傳するために常に工夫を怠らざるを見るべし(丙午出版社、價一〇〇)〔西田〕

●賀茂眞淵と本居宣長 文學博士 佐々木信綱著

本書は著者が最近二三年間に濱松、名古屋、松坂等の各地に資料を探りし結果として成れる眞淵、宣長兩翁の傳記學問に關する論文小品二十篇を集めたるものなり。前者に關しては縣居の九月十三夜、眞淵の遷都論、眞淵の土藩に贈りし書牘、豊后と眞淵、眞淵と景樹、縣居集音錄の一節、眞淵と元厩校本萬葉、眞淵と三十一言の歌、ふくろの抄及び眞淵の遺墨の十篇あり、後者に關しては松坂の一夜、宣長傳補遺、宣長の母勝子、松坂雜記、古事記

傳の版木、宣長と萬葉研究、宣長の五言七言論、排蘆小船、宣長の歌論、磯弁問答解説及び和泉和麿の宣長評の十篇あり。これら諸篇の中縣居の九月十三夜及び松坂の一夜の二篇は他の諸論文と稍々其趣を異にし、多く想像を交へて歴史小説の體となし、吾人をして寧ろ無くもがな感を起さしむ。その他諸篇は長短一ならざれども、何れも趣味と價值とに富める文字なり。殊に蒙庵と眞淵及び宣長傳補遺中の宣長の神道歌論に關する思想の淵源の如きは學問の傳統を考ふる上に參考となるものなるべし。ふくろの抄は眞淵が四人の女弟子に宛てたる書翰集「ふくろ」の抄録にして、眞淵の人物を窺ふべき好資料たり。又排蘆小船は宣長の著にして學界未知のもの、石上私淑言の初稿本なりと著者は断定せられたり。要するに本書は文章平明振假名附にして通俗を旨としたれども、その記事斯道の研究者を裨益すること多大なるべし。卷頭には關係の寫眞版八葉を挿入せり。(東京市京橋區南橫町十八番地廣文堂發行價〇、九〇)〔古田〕

●松平不昧傳 三冊 松平家編輯部編纂

出雲松江藩に於ける近世の名主として、又茶道不昧流の開祖として名高き松平泮郷公の傳記にして舊藩主松平直亮伯の意を承け高橋龍雄氏主としてこれを編纂し文學博士三浦周行氏の校閲を経たるものなり。本書上卷は卷頭雲州松平家國主略表、松平不昧略